

監獄法施行規則 戒護

一五四

第四十九條 戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條 窄衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、飲ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠及ヒ捕繩ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、鎖ハ監外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得

窄衣ハ六時間以上、兩脚施飲ハ六月以上、一脚施飲ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ窄衣及ヒ飲ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 監獄官吏在監者ニ對シテ釵又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第五十二條 典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所ヲ告知ス可シ

第五十四條 在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシ

メ健康ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可シ

護送ヲ停止シタルトキハ其旨ヲ關係官廳ニ通報ス可シ

第五十五條 護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラズ刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノ亦同シ

刑事被告人及ヒ十八歳未満ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分ス可シ

第五十六條 在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及ヒ其附近並ニ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報ス可シ

第五十七條 前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ爲ス外逃走及ヒ逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報ス可シ

第五章 作業

監獄法施行規則 作業

一五五

第五十八條 在監者ノ作業時間ハ左ノ如シ

十一月 七時間

十二月 八時間

十二月 九時間

五月 十時間

六月 十一時間

八月 十時間

作業時間ハ地方ノ状況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以内短縮スルコトヲ得
教育、教誨及ヒ運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十九條 作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ可シ

第六十條 在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第六十一條 作業科程ハ普通一人ノ仕上高及ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一二之ヲ定ム可シ
仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ

以テ作業科程トス

十八歳未満ノ受刑者、老者、病弱者及ヒ不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付キ相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條 作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十三條 一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖モ作業時間内ハ繼續シテ作業ニ就カシム可シ

第六十四條 請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其作業ヲ中止シ若クハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條 典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十六條 刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス
刑期六月ニ滿タス又ハ受刑後三月ヲ經過セサル受刑者ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但十八歳未満ノ受刑者ヲ監外

ノ農業ニ就カシムルハ此限ニ在ラス

第六十七條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ検査セ

シム可シ

第六十八條 仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トナ

對照シ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十一條第二項ノ作業ニ付テハ一月毎ニ其就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ

作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條 前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲

ス可シ

第七十條 左ニ掲グル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一 累犯ノ懲役囚ニシテ入監後三月ヲ經過セサルモノ

二 監獄法第六十條第六號乃至第八號及ヒ第十號乃至第十二號ノ懲罰ニ處セ

ラレ其執行中ニ在ル者

三 就業三十日ニ滿タサル者

四 釋放ノ月ニ於ケル就業日ノ全部ヲ通シ就業セサル者

第七十一條 作業賞與金計算高ハ各就業者ノ成績ヲ普通ノ傭工錢ニ見積リ行狀、

犯數及ヒ作業科程ノ了否ヲ斟酌シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム可シ

一 刑事被告人、拘留囚及ヒ禁錮囚ハ見積額ノ十分ノ四乃至十分ノ七

二 懲役囚ハ見積額ノ十分ノ一乃至十分ノ四

第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ就業ノ當日ニ

限リ前條ニ掲ケタル割合ノ外見積額ノ十分ノ三以内ヲ増加スルコトヲ得

第七十三條 在監者惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加

ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ内ヨリ控除スルニト

ヲ得

第七十四條 就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知ス可

シ

第七十五條 作業賞與金ハ就業者釋放ノ際之ヲ給與ス可シ

第七十六條 十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子

監獄法施行規則 作業

ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ
情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スル
コトヲ得

受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作
業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條 作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其
他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞與金ヲ
給スルコトヲ得

第七十八條 作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月内ニ其居所分明セサル
トキハ其計算高ヲ抹消ス可シ

第七十九條 監獄法第二十一條及ヒ第三十八條ニ依リ手當金ヲ給ス可キ情狀アリ
ト認ムルトキハ典獄ハ調査書類ヲ添へ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

第六章 教誨及ヒ教育

第八十條 教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲ス可シ

必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サ
シムルコトヲ得

第八十一條 病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就
キ教誨ヲ爲ス可シ

第八十二條 受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付
シ毎日教誨ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ
得

第八十三條 恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ
其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲ス可シ

第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教
誨ヲ爲ス可シ

第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以内小學程
度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ

監獄法施行規則 教誨及ヒ教育

監獄法施行規則 給養

一六二

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニ
ハ其教育ノ程度ニ應ジ毎日二時間以内相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ

第八十六條 文書圖畫ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限り之ヲ許ス

新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サス

第八十七條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖畫ヲ閱

讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ増加スルコトヲ得

第八十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房内ニ於テ自辨

ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章 給養

第八十九條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

衣類

- 一 單衣
- 二 袴
- 三 綿入

四 襯衣

五 帶

六 襪

七 股引

婦女ニハ股引ニ代ヘ前垂ヲ用ル

臥具

一 蒲團又ハ毛布

二 敷布

三 枕

四 蚊蠅

雜具

一 手巾

二 雨具

三 冠物

監獄法施行規則 給養

一六三

監獄法施行規則 給養

二六四

四 履物

股引又ハ前垂ハ作業ニ就ク者ニ限り之ヲ交付ス
用紙ハ之ヲ給與ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ増加ス
ルコトヲ得

第九十條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但
蚊蠅ハ此限ニ在ラス

作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス
用紙ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム

病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ増減スルコトヲ
得

已ムコトヲ得サル事情アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ第一項及ヒ第二
項ニ定メタル箇數ヲ増減スルコトヲ得

第九十一條 受刑者ニ著用セシムル衣類ハ褐色トス

左ニ掲ケル衣類臥具ハ淺葱色トス

一 刑事被告人ニ貸與スル衣類

二 勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類

三 十八歳未満ノ受刑者ニ著用セシムル衣類

四 蒲團

第九十二條 自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衛生ニ害ナキ物ニ
限ル

自辨ノ衣類臥具ノ品目及ヒ箇數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條 自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交換、補綴又ハ洗濯セシム可シ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ洗濯シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔ト
ス

第九十四條 在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ

一 飯 下桌十分ノ四
案十分ノ六

一人一回三合以下

二 菜

一人一日五錢以下

監獄法施行規則 給養

一六五

地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得
作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ増加スルコトヲ得

第九十五條 在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十六條 在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條 病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條 自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條 自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第一百條 自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其検査ヲ爲ス可シ

第一百一條 雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之

ヲ用井シム可シ

第八章 衛生及ヒ醫療

第一百二條 監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用井テ之ヲ清淨ナラシム可シ

第一百三條 受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髭ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ剃削セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ剃削セシムルコトヲ得ス

第一百四條 頭髮鬚髭ヲ剃削セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ
婦女ニハ香油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第一百五條 在監者ノ入浴ノ度数ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第一百六條 在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以内戶外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ム可キ者ニ付テハ此限ニ在ラス

監獄法施行規則 衛生及ヒ醫療

一六八

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限り一時間以内ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ月外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百七條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歳未滿ノモノハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第一百八條 十八歳未滿ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ異ニス可シ

第一百九條 獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ル可ク病監内ノ獨居監房ニ拘禁ス可シ

第一百十條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第一百一條 傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血清注射ヲ施スコトヲ得

第一百十二條 傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第一百十三條 在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ市區町村役場及ヒ警察官署ニ其事實ヲ通報ス可シ

第一百十四條 監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送ス可キトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送ス可キ病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第一百十五條 在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其狀況ヲ視察セシム可シ

第一百十六條 病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ選送セシメ司法大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ

第一百十七條 治療ノ爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サル醫師

監獄法施行規則 衛生及ヒ醫療

一六九

監獄法施行規則 接見及ヒ信書

一七〇

ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ産婆ヲ付スルコトヲ得

第百十八條 在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑
事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第百十九條 妊婦ハ受胎後七月以上ノ者産婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限り
之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章 接見及ヒ信書

第百二十條 十四歳未満ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條 接見ノ時間ハ三十分以内トス但辯護人トノ接見ハ此限ニ在ラス

第百二十二條 接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條 接見ノ回数ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月
毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百二十四條 典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制
限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條 在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業、

住所、年齢、在監者トノ續柄及ヒ面談ノ要旨ヲ聞取り許可ヲ與ヘタル者ニハ接

見者心得事項ヲ告知ス可シ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其氏名、職業及ヒ住所ノミヲ聞取り裁

判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍ホ其旨ヲ證明セシム可シ

第百二十六條 接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシム可シ

在監者疾病ノ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其居所ニ於テ接見ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

第百二十七條 接見ニハ監獄官吏之ニ立會フ可シ

第百二十八條 外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ
得ス

第百二十九條 受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁

錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超エルコトヲ
得ス

監獄法施行規則 接見及ヒ信書

一七一

監獄法施行規則 接見及ヒ信書

一七二

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得。

第三百三十條 在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閲ス可シ

發信ハ封緘ヲ爲ナスシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺ス可シ

第三百三十一條 外國文ヲ用井タル信書ハ檢閲ノ爲メ在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第三百三十二條 受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外日曜日、休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第三百三十三條 在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書ス可シ

第三百三十四條 在監者ノ發送スル信書ノ郵便税ハ自辨トス裁判所其他公務所ニ對

シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便税ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

書信用紙及ヒ封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第三百三十五條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ其他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第三百三十六條 信書ノ檢閲、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル可ク速ニ之ヲ爲ス可シ

第三百三十七條 信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第三百三十八條 第二百二十九條ニ定メタル度数ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付ス可シ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付ス可シ

第三百三十九條 接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閲ノ際行刑上參考ト爲ル可キ事項ヲ發見

監獄法施行規則 接見及ヒ信書

一七三

監獄法施行規則 領置

一七四

シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第十章 領置

第四百十條 領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印ス可シ

第四百十一條 金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十三條 受刑者ニハ法令其他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢及ヒ司法大臣ニ於テ認可シタル物ヲ除ク外差入ヲ爲スコトヲ得ス但自辨ヲ許シタル物ハ此限ニ在ラス

第四百十四條 刑事被告人ニハ前條ニ掲ケタル物ノ外衣類臥具、飲食物、手巾及

ヒ履物ニ限り差入ヲ爲スコトヲ得

第四百十五條 衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百十六條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業及ヒ住所ヲ調査ス可シ

第四百十七條 在監者ニ宛テ送致シテリタル物及ヒ差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ検査ス可シ

飲食物ノ検査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシム可シ

第四百十八條 自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキト雖モ携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲ス可シ

第四百十九條 飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用セス

第四百十條 没入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ没入廢棄簿ニ品目、數量並ニ處分ヲ爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印ス可シ

第四百十一條 死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク可キ者遠地ニ在ルトキハ其請求ニ因

監獄法施行規則 領置

一七五

リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得但遞送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章 賞罰

第百五十二條 賞遇ヲ爲ス可キ者ニハ賞表ヲ付與ス可シ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第百五十三條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用井上衣ノ左袖肩臂間ノ表

面ニ縫著セシム可シ

第百五十四條 賞遇ハ左ノ如シ

一 第百二十三條ニ定メタル接見ノ度数及ヒ第百二十九條ニ定メタル信書送受ノ度数ヲ一回宛増加スルコト

二 襯衣ノ自辨ヲ許スコト

三 作業ノ變更ヲ許スコト

四 第七十一條ニ定メタル作業賞與金計算高ノ割合ヲ賞表一箇毎二十分ノ一

宛増加スルコト

五 賞表一箇ヲ有スルモノニハ一週間ニ一回、賞表二箇ヲ有スル者ニハ一週

間ニ二回、賞表三箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ三回榮ヲ増給スルコト但其代價ハ一回三錢以下トス

第百五十五條 賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其期間賞表ヲ除去ス可シ

第百五十六條 在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

一 在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕拿シタルトキ

三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第百五十七條 減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第百五十八條 懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第百五十九條 懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲ス可シ

監獄法施行規則 賞罰

第六十條 懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス可シ

戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第六十一條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時時其健康ヲ診斷セシム可シ

第六十二條 減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限り懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

前項ニ掲ケタル者ヲ移監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第六十三條 戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診斷セシム可シ

第六十四條 懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監

後三日以内ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ

收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第六十五條 在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第六十六條 在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲罰簿ニ記載ス可シ

第十二章 釋放

第六十七條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ハ釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ諭告ヲ爲ス可シ

第六十八條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査ス可シ

第六十九條 典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラル可キ者ノ性格及ヒ行狀並ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者ニ通報ス可シ

第七十條 釋放セラル可キ者ノ領置物及ヒ作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ

監獄法施行規則 釋放

監獄法施行規則 釋放

一八〇

置グ可シ

第七十一條 釋放ノ際着用ス可キ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若クハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス可シ

第七十二條 受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乗船所迄同行セシメ本人ニ代リ其歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乗車券又ハ乗船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ

第七十三條 受刑者ニ付假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ謄本竝ニ行狀録及ヒ身上調査書類ヲ添ヘ司法大臣ニ具申ス可シ

受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲ス可シ

第七十四條 假出獄ニ因リ釋放ス可キ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付ス可シ

第七十五條 假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知りタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第七十六條 第七十三條及ヒ第七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出獄ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章 死亡

第七十七條 在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視ス可シ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歴、死因及ヒ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名ス可シ

自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名竝ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第七十八條 死亡者ノ病名、死因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス可シ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第七十九條 受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ

監獄法施行規則 死亡

一八一

監獄法施行規則 死亡

限リ解剖ノ爲メ官公立ノ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得
死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其後ニ至リ交付ヲ請フ者
アリト思料ス可キトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタル
トキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十條 死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタルトキハ其旨ヲ死亡
帳ニ記載ス可シ

第百八十一條 死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第百七十

九條ノ場合ヲ除ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬ス可シ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツ可シ

第百八十二條 死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日

ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツ可シ

墓標ニハ石ヲ用ヅ可シ

附則

本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有

ス

●各監獄ノ種類

(明治四十一年八月二十日
司法省告示第五十一號)

各監獄ノ種類左ノ通相定メ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

小菅監獄 懲役監

東京監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監

市谷監獄 懲役監

巢鴨監獄 懲役監

大阪監獄 懲役監

堀川監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監

長崎監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監

函館監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監

各監獄ノ種類

各監獄ノ種類

名古屋監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
宮城監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
廣島監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
橫濱監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
新潟監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
浦和監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
千葉監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
宇都宮監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
前橋監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
水戸監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
甲府監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
靜岡監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
長野監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
京都監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監

各監獄ノ種類

奈良監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
神戸監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
和歌山監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
膳所監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
徳島監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
岡山監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
福井監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
金澤監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
富山監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
高知監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
高松監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
鳥取監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
三池監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
佐賀監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監

各監獄ノ種類

福岡監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
熊本監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
大分監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
鹿児島監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
宮崎監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
沖繩監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
青森監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
札幌監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
樺戸監獄	懲役監、禁錮監
網走監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
十勝監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
岐阜監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
安濃津監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
福島監獄	懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監

山形監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
 盛岡監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
 秋田監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
 山口監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
 松江監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
 松山監獄 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
 勢役場、小菅監獄、市谷監獄、葉嶋監獄、大阪監獄、三池監獄、樺戸監獄ヲ除ク
 外各監獄ニ之ヲ附設シ懲治場ハ當分ノ内堀川監獄、函館監獄、名古屋監獄、廣島
 監獄、横濱監獄、浦和監獄、長野監獄、京都監獄、神戸監獄、金澤監獄、高知監
 獄、佐賀監獄、鹿児島監獄、宮崎監獄、沖繩監獄、札幌監獄、福島監獄、松江監
 獄ニ之ヲ置ク

警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費
 用ニ關スル件 (明治三十五年二月二十七日)
 法律 第十 一號

警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用 一八七
 ニ關スル件

警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用
ニ關スル件

一八八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ニ
關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則第一條ニ依リ警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ニ關スル費用ハ
總テ警察費ヲ以テ之ヲ支辨ス但シ其ノ費額ニシテ北海道地方費及府縣ノ負擔ニ屬
スル部分ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監獄費ヨリ之ヲ償還スヘシ

附則

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來監獄所屬ノ物品ニシテ警察署内ノ留置場ニ設備セルモノハ本法施行ノ際之ヲ
北海道地方費及府縣ノ所屬トス但シ警察費ノ國庫支辨ニ屬スル地方ハ此ノ限ニ在
ラス

○司法省令

明治三十五年三月十七日
第四號

明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費
額ハ一人一日ニ付金拾五錢トス但拘禁又ハ留置ノ初日ハ一日ヲ以テ計算シ出監ノ

日ハ之ヲ算入セス(三十六年司法省令第二十七號ヲ以テ本令中改正)

●囚人及刑事被告人押送規則

(明治三十年十一月二十六日)
勅令第四百十五號

朕囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

囚人及刑事被告人押送規則

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ遞傳ニ付スルモノトス
但シ十里以内ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑
事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得
前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ
得

第二條 同一廳府縣内ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシム
ヘシ但シ十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例
ニ依リ取扱フヘシ

囚人及刑事被告人押送規則

一八九

囚人及刑事被告人押送規則

一九〇

- 一、物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危険ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス
- 二、貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未満ノ金額者ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得
- 第四條 前條ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス
- 第五條 押送者ノ旅費及囚人及刑事被告人ノ押送費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ區別ニ從ヒ各其ノ經費ヲ以テ支辨ス但シ他廳府縣ヨリ囚人ノ送還ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ押送費用ハ送還ヲ求メタル廳府縣ノ經費ヨリ支辨ス
- 集治監ニ於テ執行スヘキ刑ノ確定判決ヲ受ケタル囚人ニ係ル押送費用ハ在府縣獄囚徒費ヲ以テ之ニ充ツ
- 第六條 被押送者ノ宿泊費額ハ警察署又ハ警察分署ニ於テハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシムル場合ニ於テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 刑事被告人遞傳押送ノ場合ニ於テ警察署長若ハ警察分署長ハ監獄ノ規程ニ從ヒ押送途中ニ必要ナル物品又ハ飲食物ニ限り自費ヲ以テ之ヲ購求スルコトヲ許シ又親屬故舊ニ之カ差入ヲ許スコトヲ得

第八條 押送途中被押送者死亡シ二十四時間内ニ遺骸ノ引取人ナキトキハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ

假埋葬ノ費用ハ第五條ノ區別ニ從ヒ支辨スヘシ

第九條 本則ハ軍衙間ニ於ケル囚人及刑事被告人ノ押送ニ適用セス

附則

第十條 本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官東京府ニ於テハ府長之ヲ爲スヘシ

第十一條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第十二條 明治十五年太政官達第十號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

囚人及刑事被告人押送規則

一九一

囚人及刑事被告人押送規則

一九二

●囚人及刑事被告人押送細則

(明治三十年十二月二十七日)
內務省令第三十七號

囚人及刑事被告人押送細則左ノ通り相定ム

囚人及刑事被告人押送細則

第一條 囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ發送官署ニ於テ別記雛形ノ様式ニ從

ヒ押送狀ヲ作り被押送者ノ身上ニ關スル書類其他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト

共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

前項押送ノ場合ニ於テハ押送前若クハ押送ト同時ニ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署

ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二條 疾病者妊娠者又ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ニ於テ差支ナシ

ト認ムルニ非レハ押送スルコトヲ得ス

刑事被告人ニシテ醫師ニ於テ押送ニ堪ヘサル者ト認ムルトキハ當該裁判官ニ通

知スヘシ

第三條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若クハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日没後

ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 押送ヲ爲ス警察署又ハ警察分署ニ於テハ別記雛形ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送

ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第五條 被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察署又ハ警察分署ニ宿泊セ

シムヘシ

囚人及勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ハ監獄署所在地ニ於テハ監獄署ニ宿

泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其地ノ警察官又ハ市町村長ニ協

議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第六條 被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合

ニ於テハ其ノ費用ハ總テ實費額ニ依ル但臥具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金拾錢

食費ハ一回金拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 刑事被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキ

ハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有無及其ノ他ノ關係ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

囚人及刑事被告人押送細則

一九三

囚人及刑事被告人押送細則

一九四

拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該裁判官ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第八條 前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ徴スヘシ

第九條 押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準シ之ヲ許否スヘシ

第十條 押送中押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルトヲ得又已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十一條 押送中押送者死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最初ノ着船地又ハ停車地ノ警察署又ハ警察

分署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ着船地又ハ停車地ノ警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得

交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徴シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長(外國人ナラハ領事)發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知シ尙遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十二條 押送中逃走者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ其ノ地ノ警察官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送官署ハ尙發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十三條 被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

附則

第十四條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス
(別記離形略ス)

囚人及刑事被告人押送細則

一九五

囚人及刑事被告人遞傳護送ニ關スル件

一九六

●囚人及刑事被告人遞傳護送ニ關スル件

(明治三十一年二月十五日)
司法省訓令第一號

檢事局

檢事ニ於テ囚人又ハ刑事被告人ヲ遞傳護送セシムルトキハ遞傳狀ヲ作り護送入ニ
交付シ來リタル處明治三十年^{十一月}勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則並
同年^{十二月}內務省令第三十七號囚人及刑事被告人押送細則ノ發布アリタルニ付キ自
今檢事ハ遞傳狀ヲ作ラス囚人又ハ刑事被告人ヲ發送スヘキ官署ニ對シ必要ナル書
類ヲ添付シテ其押送方ヲ指揮スル儀ト心得可シ

●特赦及減刑ニ關スル件

(明治四十一年九月二十四日)
勅令第二百十五號

朕特赦及減刑ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 通常裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ上奏ハ司法大
臣之ヲ爲ス

第二條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法

大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三條 特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 判決謄本

二 刑ノ執行指揮書ノ謄本

三 刑期計算書

四 戶籍ノ謄本

五 犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘ

キ事項ニ關スル調査書類

第四條 監獄ノ長ノ爲ス特赦又ハ減刑ノ申立ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事

ヲ經由スヘシ

檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ申立書ヲ司法大臣ニ進達

スヘシ

第五條 司法大臣ハ特赦又ハ減刑ノ申立テ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事

特赦及減刑ニ關スル件

一九七

特赦及減刑ニ關スル件

一九八

又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知スヘシ

第六條 特赦又ハ減刑ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ裁可狀ノ謄本ヲ作り刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ之ヲ送付スヘシ

第七條 裁可狀ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ其ノ謄本ヲ作り之ヲ本人ニ下付スヘシ本人假出獄中ナルトキハ其ノ旨ヲ監獄ノ長ニ通知スヘシ
本人在監中ナルトキハ其ノ監獄ノ長ニ前項ノ謄本ヲ送致シ下付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

本人他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ謄本ノ下付ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 司法大臣ヨリ送付ヲ受ケタル裁可狀ノ謄本ハ之ヲ判決書ニ添附スヘシ訴訟記録他ノ裁判所ノ檢事局ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ前項ノ手續ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記録ニ添附スヘシ

第九條 裁可狀ノ謄本ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ

長ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

假出獄取締細則

(明治四十一年九月十日
司法省令第二十五號)

假出獄取締細則左ノ通相定ム(内務大臣連署)

假出獄取締細則

第一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ

第二條 假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到着スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ケ可シ若シ旅行數日ニ涉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ケ可シ

第三條 假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其他ノ事故ニ由リ前條ノ規定ニ從フコ

假出獄取締細則

一九九

假出獄取締細則

二〇〇

下能ハサルトキ又ハ其處アルトキハ遲滞ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ケ可シ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ケ可シ

第四條 監獄ノ長證票ヲ交付シタルトキハ其旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及ヒ監督警察官署ニ通報ス可シ

第五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ届出ツ可シ

第六條 假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請フ可シ
住居ノ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付ス可シ但監督警察官署ノ管轄區域内ニ住居ヲ轉移スル場合ハ此限ニ在ラス
第二條及ヒ第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監

獄並ニ新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ警察官署ニ通報ス可シ
前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致ス可シ

第八條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ

監督警察官署及ヒ監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付ス可シ

第六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事ニ通報ス可シ

第十條 假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

第十一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滞ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツ可シ
假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受タル者アルトキハ前項ノ届出ニハ連署ヲ要

假出獄取締細則

二〇一

假出獄取締細則

二〇二

ヌ

第十二條 假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ其警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報ス可シ

第十三條 監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲メ必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之方爲メ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ發シタルトキハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十四條 監督警察官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及ヒ勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其他ノ事項ニ付調査書ヲ作り之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ
第十五條 假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄ノ長ノ意見ヲ聽

キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ従事スル者、神官、僧侶、教師又ハ徳望アル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日第十四條ニ掲ケタル事項ヲ監督警察官署ニ通報ス可シ

第十六條 檢事及ヒ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ

警察官署ノ爲ス申報ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ヲ經由ス可シ
第十七條 司法大臣假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若クハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事又ハ其在監スル監獄ニ通報シテ其執行ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシム可シ

第十八條 假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢事ハ刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ依リ逮捕狀ヲ發ス可シ

第十九條 第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監督

假出獄取締細則

二〇三

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

二〇四

警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第二十條 假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ第四條ノ

檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄取締細則ニ依リ交附スヘキ旅券及證明書

雛形

(明治四十一年九月三十日)
内務省訓令第九號

廳府縣 東京府
ヲ除ク

假出獄取締細則ニ依リ交附スヘキ旅券及證明書ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ
(雛形略ス)

●假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

(明治四十一年九月十八日)
司法省訓令第七號

監獄

假出獄及假出場ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

第一條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、刑數、刑名、刑期、刑期ノ起算並ニ終了日、刑期三分ノ一ニ相當スル日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ狀態及ヒ保護者ト本人トノ關係ヲ記載ス可シ

第二條 假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、刑數、刑名、刑期、若クハ金額、刑期ノ起算及ヒ終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載ス可シ

第三條 監獄法施行規則第七十二條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添附ス可キ行狀録ハ身分帳簿乙號行狀録最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

二〇五

上票及ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第四條 刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ曆ニ從ヒ計算ス可シ

一 刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

二 刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三 刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

四 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

ス

(イ) 先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム

(ロ) 次ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ曆ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

(ハ) (ロ)號ニ依リ算出シル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上クルモノトス

五 年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號(イ)(ロ)ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號(ハ)ノ例ニ依リ計算ス

六 月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前數號ノ例ニ準シ計算ス

七 刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ算入ス可假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

監獄作業規程

二〇八

キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條 假出獄證票ハ別記第一號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場證票ハ別記第二號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條 假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第七條 (四十二年司法省訓令第四號ヲ以テ削除)

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年司法省訓令第二號假出獄證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
(別記書式略ス)

●監獄作業規程

(明治四十一年九月十六日)
司法省訓令第六號

監獄作業規程左ノ通改正ス

監獄作業規程

第一條 作業種類ノ認可ヲ受クルニハ作業ノ種目、施業方法、就業者ノ種類、就業人員、作業科程、見積工錢、就業ノ場所及ヒ器具器械ニ關スル事項ヲ申請書ニ記載シ仍ホ官司業ニ付テハ收支豫算ノ内譯書、受賃業ニ付テハ契約ノ案文ヲ附添ス可シ

監外作業ニ係ルトキハ前項ニ依ル外就業者ノ選擇及ヒ取締ニ關シ意見ヲ附ス可シ

第二條 認可ヲ受ケタル作業ヲ廢止シ又ハ其施業方法、作業科程若クハ見積工錢ヲ變更シタルトキハ事由ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第三條 作業ニ付テハ作業主任及ヒ作業擔當者ヲ定ム可シ
作業主任ハ看守長、作業擔當者ハ看守若クハ女監取締ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第四條 作業ハ典獄若クハ分監長ノ命令アルニ非ラサレハ之ニ着手スルコトヲ得ス

監獄作業規程

二〇九

監獄作業規程

一一〇

第五條 作業ノ命令ヲ爲スニハ作業原簿ニ必要事項ヲ記載シ典獄若クハ分監長之ニ證印ス可シ

作業原簿ハ官司業ニ付テハ第一號乃至第三號書式、受買業ニ付テハ第四號及ヒ第五號書式、委託業ニ付テハ第六號及ヒ第七號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條 作業主任作業ノ命令ヲ受ケタルトキハ速ニ命令ノ旨趣ヲ作業擔當者ニ通知シ作業原簿ニ通知ノ年月日ヲ記載シ且作業擔當者ヲシテ之ニ證印セシム可シ

第七條 作業擔當者作業命令ノ通知ヲ受ケタルトキハ速カニ作業ノ種類及ヒ方法ヲ就業者ニ指示シ其實行ニ著手セシム可シ

工場内ニ於ケル製作又ハ修繕ニ係ルトキハ工場作業簿、農作ニ係ルトキハ農場作業簿ニ命令ノ要旨及ヒ通知ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ置ク可シ

第八條 作業主任ハ毎日始業時ニ於ケル就業人員ヲ調査シ第八號書式ニ依リ作業人員日表ヲ作成ス可シ

第九條 作業擔當者ハ毎日終業ノ際作業ノ成績ヲ検査シ且作業ニ使用シタル器具器械ヲ點檢ス可シ

作業成績ヲ検査シタルトキハ作業擔當者ハ第九號書式ノ日課表ニ其成績ヲ記入シ翌月二日マテニ之ヲ作業主任ニ差出ス可シ

第十條 物品ノ製作若クハ修繕ヲ終リ又ハ農作物ヲ收穫シタルトキハ作業擔當者ハ其都度品目及ヒ數量ヲ工場作業簿若クハ農場作業簿ニ記載シ置キ作業主任ニ物品引渡ノ通知ヲ爲ス可シ

製作、修繕又ハ農作以外ノ作業ヲ終リタルトキハ作業主任ニ完成ノ通知ヲ爲ス可シ

第十一條 作業主任物品引渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ先ツ物品ノ品目、數量及ヒ仕上ノ模様ヲ検査ス可シ

物品ノ引渡ヲ終リタルトキハ作業擔當者ハ引渡ノ年月日ヲ工場作業簿若クハ農場作業簿ニ記載シ作業主任ノ證印ヲ受ク可シ

前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ作業完成ノ年月日、就業人員及ヒ工錢ヲ作業原簿ニ記載シ典獄若クハ分監長ノ證印ヲ受ク可シ

第十二條 作業主任物品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ必要事項ヲ作業原簿ニ記載シ典獄作業規程

一一一

監獄作業規程

二二二

獄若クハ分監長ノ證印ヲ受ク可シ

引渡ヲ受ケタル物品ニシテ受負又ハ委託ニ係ルトキハ受負者又ハ委託者ニ對シ
交付ノ通知ヲ爲ス可シ

一私人ノ委託ニ係ルトキハ十日以内ニ代金納付ノ上物品ヲ引取ルヘキ旨ヲ通知
ス可シ

第十三條 完成品ノ内渡ヲ爲ストキハ作業原簿ニ典獄若クハ分監長ノ證印ヲ受ク
可シ

物品ノ交付ヲ終リタルトキハ其都度作業原簿ニ受領者ノ證印ヲ徴ス可シ

第十四條 作業主任ハ監獄官會議ノ決議ニ基キ作業賞與金計算高報告書及ヒ第十
號書式ノ作業月表ヲ作成ス可シ

前項ノ作業賞與金計算高報告書ハ毎月十四日マテニ之ヲ典獄若クハ分監長ニ送
出ス可シ

第十五條 官司業ニ係ル製作品及ヒ農作物ハ材料及ヒ工錢ヲ以テ其原價トシ左ノ
標準ニ依リ賣却價額ヲ算定ス可シ

一 監獄需用ノ物品ハ原價但シ漸次收穫スル農作物ニ付テハ市價ヲ參酌ス可シ

二 他ニ賣却スヘキ物品ハ市價

修繕品ニ付テハ前項ノ例ニ準シ修繕價額ヲ算定ス可シ

第十六條 受負業ニ付テハ受負期間、就業人員及ヒ受負工錢ヲ豫定スルコトヲ要
ス

物品ノ製作又ハ修繕ヲ目的トスル受負業ニ付テハ一切ノ器具、器械及ヒ素品ヲ
受負者ヨリ提供セシムルコトヲ要ス

第十七條 受負契約ヲ締結スルニハ以下十條ノ規定ニ準據シ契約證書ニ其旨趣ヲ
明記ス可シ

第十八條 受負期間ハ二月以上一年以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム可シ但期間満了
ノ際更新スルコトヲ妨ケス

第十九條 就業人員ハ成ル可ク一日二十人以上百人以下トシ其範圍内ニ於テ最多
限及ヒ最少限ヲ定ム可シ

第二十條 受負工錢ハ就業人員一人ニ對スル一日ノ賃金ヲ以テ之ヲ定メ毎月十五

監獄作業規程

二二三

監獄作業規程

二一四

日迄二前月分ヲ支拂ハシム可シ

第二十一條 器具、器械及ヒ素品ハ運滯ナク之ヲ豫納セシメ製品ハ指定ノ期間内ニ之ヲ引取ラシム可シ

第二十二條 作業ノ方法及ヒ取締ハ總テ監獄ノ法規及ヒ監獄官吏ノ指揮ニ從ヒ受負者ヲシテ之ニ干與セシムルコトヲ得ス

第二十三條 法令ノ結果、天災事變、傳染病流行其他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ付テハ作業ヲ休止シ又ハ直ニ契約ノ解除ヲ爲ス權利ヲ留保ス可シ

第二十四條 左ノ場合ニ付テハ直ニ契約ノ解除ヲ爲ス權利ヲ留保ス可シ
一 受負者死亡シ隱居ヲ爲シ又ハ破産シタルトキ

二 受負者工錢ヲ支拂ハス其他契約上ノ義務ニ違背シタルトキ

第二十五條 工錢ノ不拂其他違約ノ場合ニ對スル擔保トシテ少クトモ二箇月分ノ工錢ニ相當スル金錢又ハ有價證券ヲ受負者ヨリ提供セシム可シ

第二十六條 受負者ノ責ニ歸ス可キ事由ニ因リ休業シタルトキハ前日ト同額ノ工錢ヲ支拂ハシム可シ

第二十七條 器具、器械、素品及ヒ製品ノ保管並ニ仕事ノ瑕疵ニ付テハ總テ賠償ノ責任ヲ負フコトヲ得ス

第二十八條 受負業ニ關スル器具、器械若クハ素品ノ出納ハ作業主任之ヲ第十一號書式ノ器具器械受拂簿若クハ第十二號書式ノ素品受拂簿ニ記載シ之ニ受負者ノ認印ヲ徴ス可シ

第二十九條 委託業ニ付テハ委託工錢ヲ豫定スルコトヲ要ス
物品ノ製作又ハ修繕ヲ目的トスル委託業ニ付テハ素品ヲ委託者ヨリ提供セシムルコトヲ要ス但作業ニ附隨スル用品ハ監獄ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ妨ケス

第三十條 第二十二條第二十三條及ヒ第二十七條ノ規定ハ委託契約ニ之ヲ準用ス
第三十一條 委託契約ヲ締結スル際必要アリト認ムルトキハ委託者ヲシテ相當ノ擔保ヲ提供セシム可シ

第三十二條 委託業ニ關スル素品ノ出納ハ第十二號書式ノ素品受拂簿ニ記載シ其都度之ニ委託者ノ認印ヲ徴ス可シ

附則

二一五

監獄作業規程

監獄作業規程

二一六

本規程ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本規程施行ノ際現存スル受負業及ヒ委託業ハ従前ノ例ニ依ルコトヲ得
(書式ハ別ニ之ヲ頒ツ)

監獄作業規程

二二六

本規程ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行ノ際現存スル學費業及ヒ委託業ハ従前ノ例ニ依ルコトヲ得
(書式ハ別ニ之ヲ頒ツ)

府縣制郡制

●府縣制郡制目次

○府縣制〔三三、法律六四〕

第一章 總則	一
第二章 府縣會	一
第一款 組織及選舉	二
第二款 職務權限及處務規程	二
第三章 府縣參事會	二
第一款 組織及選舉	三
第二款 職務權限及處務規程	三
第四章 府縣行政	三
第一款 府縣吏員之組織及任免	三
第二款 府縣官吏府縣吏員之職務權限及處務規程	三
第三款 給料及給與	三
府縣制郡制目次	三

府縣制郡制目次

二

第五章 府縣ノ財務

第一款 財産營造物及府縣稅……………三

第二款 歳入出豫算及決算……………三

第六章 府縣行政ノ監督……………三

第七章 附則……………三

○郡制(三二、法律六五)

第一章 總則……………三

第二章 郡會……………三

第一款 組織及選舉……………三

第二款 職務權限及處務規程……………三

第三章 郡參事會……………三

第一款 組織及選舉……………三

第二款 職務權限及處務規程……………三

第四章 郡行政……………三

第一款 郡吏員ノ組織及任免……………七

第二款 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程……………七

第三款 給料及給與……………七

第五章 郡ノ財務

第一款 財産營造物及郡費……………七

第二款 歳入出豫算及決算……………七

第六章 郡組合……………八

第七章 郡行政ノ監督……………八

第八章 附則……………八

○府縣郡市町村ノ人口及府縣制郡制ニ依ル議員配當ノ件(四〇、内務省令二二)……………八

○府縣會議員選舉投票ニ關スル件(三二、内務省令一九)……………九

○改選後ノ府縣會ニ於テ議長選舉ノ場合會議閉止又ハ中止方(四〇、内務省令二六)……………九

府縣制郡制目次

三

府縣制郡制目次

四

- 郡會議員選舉ニ關スル件〔三二〕、内務省令二〇〕……………九三
- 府縣制及郡制中直接税ノ種類〔三二〕、内務省告示六九〕……………九四
- 府縣會及郡會議員ノ選舉權等ニ關スル納税届出ノ件〔三二〕、内務省令三一〕……………九五
- 島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件〔三二〕、勅令三二七〕……………九六
- 島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件〔三二〕、勅令三二八〕……………九八
- 市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件〔三二〕、勅令二八五〕……………九九
- 市部會郡部會及市部參事會郡部參事會ヲ設クヘキ府縣〔三二〕、内務省令二五〕……………一〇一
- 府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ニ關スル件〔三二〕、勅令三一五〕……………一〇一
- 府縣郡吏員服務紀律〔三五〕、内務省令三〕……………一〇三
- 府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證並賠償責任ニ關スル件〔三三〕、勅令二四八〕……………一〇三

- 府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ノ退職料退職給與金遺族扶助料支給ニ關スル規定ノ件〔三三〕、内務省令一四〕……………一〇八
- 府縣稅徵收ニ關スル件〔三三〕、勅令八一〕……………一〇八
- 府縣稅、地方稅及市町村稅等滯納處分囑託方ノ件〔三四〕、内務省令二六〕……………一一三
- 府縣稅家屋稅ニ關スル件〔三二〕、勅令二七六〕……………一一四
- 府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件〔三二〕、勅令三一六〕……………一一五
- 府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度〔三二〕、内務省令二九〕……………一二六
- 郡費分賦ノ件〔三五〕、法律四〇〕……………一二七
- 府縣制郡制ニ依ル費用流用並財務ニ關スル件〔三三〕、内務省令七〕……………一二七
- 府縣制及郡制ニ依ル豫算調製ノ式ハ従前ノ例ニ依ルノ件〔三二〕、内務省令六〕……………一三三
- 府縣歲入歳出豫算調製式〔二四〕、内務省令一二〕……………一三三

府縣制郡制目次

五

府縣制郡制目次

六

- 郡歳入歳出豫算調製式〔二四、内務省令二〕……………三三
- 國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件〔三〇、法律三七〕……………三三
- 同上施行ニ關スル件〔三一、勅令一八四〕……………三四
- 地方税制限ニ關スル件〔四一、法律三七〕……………三四

●府縣制

(明治三十二年三月十六日) 法律第六十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ都市及島嶼ヲ包括ス

第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並
從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ都市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變
更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣都市參事會及
町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラ
ス

府縣制 總則

一

府縣制 府縣會 組織及選舉

二

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ都市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第六條 府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一

年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有シ

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之方爲其ノ職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣都市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラレルコトナシ

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員

二 檢事警察官吏及收稅官吏

三 神官僧侶其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘ

府縣制 府縣會 組織及選舉

三

府縣制 府縣會 組織及選舉

選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ムルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 府縣會議員中副員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選舉人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ毎年十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ要件ニ算入セス

第十二條 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條

府縣制 府縣會 組織及選舉

ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登録セラレサルトキハ經覽期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ據置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示シ郡長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ町村長ハ之ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登録セラレタル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ

限ニ在ラス

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日マテニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登録スル限ニ在ラス

前項名簿調製ノ期日經覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クトモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十四條 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條 投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ク市町村長其ノ事務ヲ管理ス

府縣制 府縣會 組織及選舉

府縣制 府縣會 組織及選舉

八

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第十七條 選舉人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得フ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ

決スヘシ

第二十條 市町村長ハ投票録ヲ製シ投票ニ關スル願未ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票ヲ終リタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票録ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條 選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開

府縣制 府縣會 組織及選舉

九

府縣制 府縣會 組織及選舉

前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十四條 郡長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ
選舉立會人ハ名譽職トス

第二十五條 郡市長ハ選舉長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉錄ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ願未ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ刷

府縣制 府縣會 組織及選舉

一一

選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ
定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス
第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第三十二條 府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得
前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ
府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決

府縣制 府縣會 組織及選舉

一三

府縣制 府縣會 組織及選舉

定ニ付スルコトヲ得

一四

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉

ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十六條 選舉者ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票

數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定

シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又市トアルハ區、市役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

一五

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

一六

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ニ關スル事

三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四 不動産ノ處分並買取受讓受ニ關スル事

五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條 府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會召集ニ應ゼス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セザルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タヌシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受ケヘカラス

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲隨

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

一七

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限り之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
- 二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

二〇

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設ケルコトヲ得

府縣制 府縣會 職務權限及處務規程

二二

府縣制 府縣參事會 組織及選舉

二二

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命ス

第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員中副員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ

順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年

月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍副員ヲ

生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ

名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等

官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集

スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事

三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事

四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項

ヲ議決スル事

五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命

令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

府縣制 府縣參事會 職務權限及處務規程

二三

府縣制 府縣參事會 職務權限及處務規程

二四

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ検査ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十八條第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ副員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

府縣制 府縣行政 府縣吏員ノ組織及任免

二五

府縣制 府縣行政 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

二六

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條 府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審查ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分

府縣制 府縣行政 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程 二七

府縣制

府縣行政
務規程

府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處

二八

ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラレルコトヲ得ス

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ其ノ召集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依リ此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣制

府縣行政
務規程

府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處

二九

府縣制 府縣行政 給料及給與

三〇

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財産若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條

第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第九十六條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

府縣制 府縣行政 給料及給與

三一

第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第九十八條 府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第一百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅

令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第一百四條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百五條 三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業者ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七條 納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在一府縣以上ニ涉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ

府縣制 府縣ノ財務 財產營造物及府縣稅

府縣制 府縣ノ財務 財産營造物及府縣稅

三四

各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第百八條 一府縣以上ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限內ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第百十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

第百十一條 府縣內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣內一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出

スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第百十四條 市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舍建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第百十五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト

府縣制 府縣ノ財務 財産營造物及府縣稅

三五

認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手数料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手数料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

府縣制 府縣ノ財務 歲入豫算及決算

府縣制 府縣ノ財務 歳入豫算及決算

三八

第百十八條 府縣知事ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第百十九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第百二十六條 府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 府縣行政ノ監督

第百二十七條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第百二十八條 此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

府縣制 府縣行政ノ監督

三九

府縣制 府縣行政ノ監督

四〇

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ
決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ
前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算竝天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限り處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヲ又ハ公益ヲ害セサルヲ否ヲ監視スヘシ內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ竝實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

內務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス
第三百十條 內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第三百十一條 內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス內務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第三百十二條 府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣之ヲ定ム

第三百十三條 左ニ掲ケル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

- 一 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事
- 二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 寄附若ハ補助ヲ爲ス事
- 四 不動産ノ處分ニ關スル事
- 五 第三百十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラ

府縣制 府縣行政ノ監督

四一

- 六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事
- 七 特別會計ヲ設クル事

第百三十四條 左ニ掲ケル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 府縣債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更スル事但シ第百十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第百三十五條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百三十六條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナル

モノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章 附則

第百三十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第百三十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

沖繩縣ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得(四十一年法律第二二號ヲ以テ本項追加)

第百三十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

府縣制 附則

府縣制 附則

四四

第四百十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財産處分ニ關スル規定ハ內務大臣
之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市郡部ノ經濟ヲ分別シ市
部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定
ヲ設ケルコトヲ得

第四百十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前
ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケ
ルマテ其ノ效力ヲ有ス

第四百十二條 明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル
府縣會議員府縣參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ
本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施
行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス
議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第四百十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ
急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第四百十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ
限リ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但
シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

第四百十五條 此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス
第四百十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部
會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル
法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第四百十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣制 附則

四五

●郡制

(明治三十二年三月十六日
法律第六十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡制

第一章 總則

第一條 郡ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括ス

第二條 郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 郡ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
郡ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更ス町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

郡制 總則

郡制 郡會 組織及選舉

四八

第二章 郡會

第一款 組織及選舉

第四條 郡會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ町村ノ區域ニ依ル但シ事情ニ依リ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ數町村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設クルコトヲ得

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第五條 郡會議員ノ員數ハ十五人以上三十人以下トス

郡ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十人マテ増加スルコトヲ得

郡會議員ノ定數及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條 郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ選舉權ヲ有ス

郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

郡會議員ハ住所ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同郡内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

郡會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラレルコトナシ

左ニ掲クル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

- 一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員
 - 二 其ノ郡ノ官吏及有給吏員
 - 三 檢事警察官吏及收稅官吏
 - 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 郡制 郡會 組織及選舉

四九

郡制 郡會 組織及選舉

五〇

五 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選舉事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

郡ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ郡ノ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス

第七條 郡會議員ハ名譽職トス

郡會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 郡會議員中副員アルトキ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員

ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘ

キ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ新ニ選舉人名簿

ヲ調製シテ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ少クトモ七十日前其ノ他ノ場合ニ於テハ少

クトモ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第十條 郡會議員ノ選舉ハ町村長之ヲ管理ス但シ數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタ

ル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ

調製スヘシ但シ數町村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉ヲ管理

スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選舉人其ノ住所ヲ有スル町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテ

ニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出

ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ要件ニ算入セス

郡制 郡會 組織及選舉

五一

選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登録セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ
前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村長ハ第三項異議ノ決定ニ依リ又ハ第四項訴願ノ裁決確定シ若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲スヘシ

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ郡内ノ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ適用ス其ノ郡内一部ノ選舉區限
リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正スヘシ
選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ
確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ選舉人名簿ニ登録セラレヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿調製ノ期日縱覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第十二條 選舉會ハ町村役場若ハ選舉ヲ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

郡制 郡會 組織及選舉

五四

數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選舉會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ
選舉會ノ場所ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ三日前町村長ニ於テ之ヲ告示スヘシ
特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選舉分會ヲ設ケ其ノ選舉ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 選舉ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選舉長トナル
選舉立會人ハ名譽職トス

第十四條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス
選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ

投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ヰヘシ

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 投票ノ拒否並效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長

郡制 郡會 組織及選舉

五五

之ヲ決スヘシ

第十八條 郡會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第二十一條 郡會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第二十二條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第二十三條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ

郡長ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラズ第二十條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ郡參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長選舉ヲ管理スル町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十五條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第十八條及第二十條ノ例ニ依ル

第二十六條 郡會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ郡參事會之ヲ決定ス

郡會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ郡長ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコト

郡制 郡會 職務權限及處務規程

六〇

ヲ得

郡會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第二十七條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十八條 郡會議員ノ選舉ニ付テハ市町村會議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第二十九條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ニ關スル事

三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ケ外使用料手数料及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事

五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ケ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第三十條 郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十一條 郡會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第三十二條 郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡長若ハ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第三十三條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

郡會ノ意見ヲ徴シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郡會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

郡制 郡會 職務權限及處務規程

六一

郡制 郡會 職務權限及處務規程

六二

第三十五條 郡會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十六條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第三十七條 郡長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第三十八條 郡會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十四日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ五日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第三十九條 郡會ハ郡長之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第四十條 郡會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條 郡會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第四十三條 法律命令ノ規定ニ依リ郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十五條乃至第十

七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ郡會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第四十四條 郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 - 二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
- 前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十五條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十六條 郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十七條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於

テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十八條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第三十七條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十一條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムハシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ郡會ニ

於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五十二條 郡會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ郡會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 郡參事會

第一款 組織及選舉

第五十三條 郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 郡長

二 名譽職參事會員 五名

第五十四條 名譽職參事會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

郡會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員中閉員アルトキハ郡長ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ヲ

ルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍閉員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ郡會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第五十五條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス郡長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二款 職務權限及處務規程

第五十六條 郡參會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事

三 郡長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述フル事

四 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ

郡制 郡參事會 職務權限及處務規程

議決スル事

- 五 郡費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 郡ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
 - 七 其ノ他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項
- 第五十七條 郡參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ郡ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ検査ニハ郡長又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第五十八條 第三十二條第三十三條第三十七條及第五十條ノ規定ハ郡參事會ニ之ヲ適用ス

第五十九條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

郡參事會ノ會期ハ郡長之ヲ定ム

第六十條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十一條 郡參事會ハ議長及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十六條第二ノ議決ヲ爲ストキハ郡長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及名譽職參事會員一名以上之ニ署名スヘシ

第六十二條 第四十二條ノ規定ハ郡參事會員ニ之ヲ適用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第五十四條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ副員ヲ補充スヘシ

第四章 郡行政

第一款 郡吏員ノ組織及任免

第六十三條 郡ニ有給ノ郡吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

郡制 郡行政 郡吏員ノ組織及任免

郡制 郡行政 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程 七〇

前項ノ郡吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第六十四條 郡ニ郡出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ郡長之ヲ命ス

第六十五條 郡ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第二款 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程

第六十六條 郡長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス

郡長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 郡會及郡參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ郡會若ハ郡參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料郡費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事項

第六十七條 郡長ハ議案ヲ郡會ニ提出スル前之ヲ郡參事會ノ審査ニ付シ若郡參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

第六十八條 郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第六十九條 郡會若ハ郡參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ

郡制 郡行政 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程 七一

郡制 郡行政 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程 七二

議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會若ハ郡參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十條 郡會若ハ郡參事會ニ於テ郡ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ

得

第七十一條 郡長ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

七十二條 郡會若ハ郡參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知

事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第四十二條第

六十二條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

郡會若ハ郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ郡會ニ於テ其ノ招

集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

郡參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此

ノ場合ニ於ケル郡長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ郡會若ハ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十三條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ郡長ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ

郡參事會ニ報告スヘシ

郡制 郡行政 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程 七三

郡制 郡行政 給料及給與

七四

第七十四條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ郡長ニ於テ專決處分
スルコトヲ得

第七十五條 官吏ノ郡行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外
國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第七十六條 郡出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第七十七條 郡吏員ハ郡長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七十八條 委員ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ財産若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他郡行政
事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第七十九條 郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第八十條 有給郡吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ
郡長之ヲ定ム

第八十一條 郡會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨
償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定
ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第八十二條 有給郡吏員ノ退職料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ郡會ノ
議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ
內務大臣之ヲ定ム

第八十三條 退職料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキ
ハ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事
會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコト
ヲ得

第八十四條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ郡ノ
負擔トス

第五章 郡ノ財務

郡制 郡ノ財務

七五

郡制 郡ノ財務 財産營造物及郡費

七六

第一款 財産營造物及郡費

第八十五條 郡ハ積立金穀等ヲ設ケルコトヲ得

第八十六條 郡ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ

又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十七條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ

郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下

ノ罰則ヲ設ケルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ郡長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會

ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條 郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 郡ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支

辨スル義務ヲ負フ

前項ノ負擔ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノ、外之ヲ郡

内各町村ニ分賦スヘシ

第九十條 郡費分賦ノ割合ハ其ノ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル各町村ノ

直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ

郡長ハ郡會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設ケルコトヲ得

第九十一條 郡内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ內務大臣ノ定ムル所

ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 郡ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ郡内一部ノ町村ニ賦課スルコトヲ

得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役又ハ現品ヲ賦課セラレタル町村ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フ

ルコトヲ得

第九十三條 使用料手数料ノ徵收ニ關シ告知ヲ受ケタル者其ノ告知ニ違法若ハ錯

誤アリト認ムルトキハ告知書ノ交付後三箇月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコ

トヲ得

郡制 郡ノ財務 財産營造物及郡費

七七

郡費ノ分賦ニ關シ町村ニ於テ其ノ分賦ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前二項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十四條 使用料手数料過料其ノ他郡ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第一項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

トヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條 郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得
郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

第九十六條 郡長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前郡會ノ議決ヲ經ヘシ

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

郡制 郡ノ財務 歲入出豫算及決算

郡制 郡ノ財務 歳入出豫算及決算

八〇

第九十七條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十八條 郡費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ナ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ナ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第九十九條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第一百條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百一條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第一百二條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ郡會ニ報告スヘシ

郡長ハ決算ヲ郡會ニ報告スル前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百三條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣

之ヲ定ム

第一百四條 郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 郡組合

第一百五條 特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若ハ變更ニ付テモ亦同シ

第一百六條 郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法並其ノ費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第一百七條 郡組合ハ法人トス

郡組合ニ關シテハ本章中規定スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七章 郡行政ノ監督

第一百八條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之

郡制 郡組合 郡行政ノ監督

八一

ヲ監督ス

第九條 此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外部ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ
前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立者ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變

ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限り處分ノ執行ヲ停止

スルコトヲ得

第十條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否

ヲ監視ノヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴

シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第十一條 監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スル

コトヲ得

第十二條 内務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ郡會ヲ招集スルトキハ郡長ハ第三十八條第二項ノ規定ニ拘ラス府

郡制 郡行政ノ監督

縣知事ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條 郡吏員ノ服務紀律ハ内務大臣之ヲ定ム

第百十四條 左ニ掲ケル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第百十五條 郡債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變

更スルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末

項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百十六條 左ニ掲ケル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

二 寄附若ハ補助ヲ爲ス事

三 不動産ノ處分ニ關スル事

四 第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラ

五 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

六 特別會計ヲ設ケル事

第百十七條 郡ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ監督官廳ハ

許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百十八條 郡ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ經易ナルモノ

ハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第百十九條 府縣知事ハ郡吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ罰

責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ郡吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ

支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ郡ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラ

ルルコトヲ得ス

第八章 附則

第百二十條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ

郡制 附則

明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第二百一十一條 郡内總町村ニ屬スル事業並其ノ財産營造物ハ小學校ヲ除ク外此ノ法律施行ノ日ヨリ郡ニ移ルモノトス

第二百二十二條 此ノ法律ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第二百二十三條 島嶼ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ムルコトヲ得前項ノ島嶼ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第二百二十四條 明治二十三年法律第三十六號郡制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル郡會議員郡參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ郡會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第二百五條 此ノ法律施行ノ際郡會及郡參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間郡長之ヲ行フ

第二百二十六條 此ノ法律ニ定ムル府縣參事會ノ職務ハ府縣制ヲ施行シ府縣參事會ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第二百二十七條 此ノ法律ニ定ムル直接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第二百二十八條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ地ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第二百二十九條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●府縣郡市町村ノ人口及府縣制郡制ニ依ル議員配當

ノ件

(明治四十年八月三十一日
內務省令第二十二號)

府縣郡市町村ノ人口及府縣制第五條第三項郡制第五條第四項議員配當ノ件左ノ通
定△

第一條 府縣制市制町村制ニ規定セル府縣市町村ノ人口ハ內閣統計局ニ於テ官報
ヲ以テ報告スル最近ノ人口ニ依ル
前項人口調査ノ期日後市府縣制第四條第二項但町村ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界
ヲ變更シタルトキハ關係市町村ノ人口ハ府縣知事ニ於テ之ヲ調査シ管内ニ告示
スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ處分市町村全部ノ區域ニ係ルモノ、人口ハ內閣統計
局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタルモノニ依ル其
ノ分割ヲ爲シテ新タニ市町村ヲ置キタルトキ及市町村ノ一部ヲ割キテ他ノ市町
村ニ併合シ又ハ境界變更ヲ爲シタルトキハ其ノ分割シタル各部ノ人口ハ處分ヲ
爲シタル當時ノ現在ニ依ル

府縣郡市町村ノ人口及府縣制郡制ニ依ル議員配當ノ件 八九

府縣郡市町村ノ人口及府縣制郡制ニ依ル議員配當ノ件 九〇

第二條 前條第二項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ府縣郡ノ境界ニ渉ルトキハ其ノ府縣郡ノ人口モ之ヲ告示スヘシ其ノ人口ハ前條第二項告示ノ市町村人口ト内閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル郡市町村ノ人口トヲ集計シタルモノニ依ル

第三條 町村ヲ變シテ市ト爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ市及郡ノ人口ヲ告示スヘシ其ノ人口ハ内閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル舊町村ノ人口ヲ以テ市ノ人口トシ其ノ他ノ町村人口ヲ集計シタルモノヲ以テ郡ノ人口トス

第四條 府縣郡ヲ廢置分合シ若ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル
第五條 府縣制第五條郡制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員郡會議員ノ數ハ人口ニ比例シテ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ府縣ニ付テハ内務大臣郡ニ付テハ府縣知事ハ別ニ配當標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ人口ハ第一條乃至第四條ノ例ニ依ル(四十四年内務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第六條 府縣會議員郡會議員ノ配當更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ議員ノ定數ニ異動ヲ生シ若ハ選舉區ノ増減アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治三十二年内務省令第十七號同第十八號及同第五十八號ハ之ヲ廢止ス

●府縣會議員選舉投票ニ關スル件

(明治三十二年五月二十日
内務省令第十九號)

本年法律第六十四號府縣制第十五條第三項ニ依リ府縣會議員選舉投票ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 府縣制第十五條第三項ニ依リ二箇以上ノ投票所ヲ設クルコトヲ要スルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第二條 前條ノ場合ニ於テハ市町村長ハ投票所ノ一ヲ管理シ他ノ投票所ハ市町村長ノ指名シタル市町村吏員之ヲ管理ス

府縣會議員選舉投票ニ關スル件

改選後ノ府縣會ニ於テ議長選舉ノ場合會議閉止又ハ中止方

九二

第三條 市町村長ノ指名シタル市町村吏員ノ管理スル投票所ニ關シテハ府縣制第十六條第十九條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第四條 投票ヲ終リタルトキハ市町村長ノ指名シタル管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票錄ヲ市町村長ノ管理スル投票所ニ送致スヘシ

町村長ニ於テ前項ノ送致ヲ受ケタルトキハ其ノ管理ニ係ル投票函及投票錄ト共ニ之ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第五條 二箇以上ノ投票所ヲ設ケタル市町村ニ於テハ投票函ノ總テ到達スルニ非サレハ選舉會ヲ開クコトヲ得ス

第六條 本令ニ規定スル市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長之ヲ行フ

第七條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

●改選後ノ府縣會ニ於テ議長選舉ノ場合會議閉止

又ハ中止方

(明治四十年十月二十二日
內務省令第二十六號)

改選後ノ府縣會ニ於テ始メテ議長ヲ選舉スル場合ニハ會議ノ決議ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●郡會議員選舉ニ關スル件

(明治三十二年五月二十日
內務省令第二十號)

本年法律第六十五號郡制第十二條第四項ニ依リ郡會議員選舉ニ關スル件左ノ通定

第一條 郡制第十二條第四項ニ依リ選舉分會ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ郡長之ヲ定ム

第二條 選舉分會ハ郡制第十條ニ依リ選舉ヲ管理スル町村長ノ指名シタル町村長其ノ他町村吏員之ヲ管理ス

選舉分會ニ於ケル選舉立會人及投票ノ拒否ニ關シテハ郡制第十三條及第十七條郡會議員選舉ニ關スル件

九三

府縣制及郡制中直接税ノ種類

ノ規定ヲ適用ス

第三條 選舉分會ノ管理者ハ選舉録ヲ製シテ投票ノ顛末ヲ記載シ投票ヲ終リタル後選舉立會人三名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ選舉分會ノ管理者ハ其ノ指定シタル選舉立會人ト共ニ直ニ投票函及選舉録ヲ選舉本會ニ送致スヘシ

第五條 選舉本會ニ於テハ選舉分會ノ投票函ノ總テ到達スルニ非サレハ投票ノ點檢ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉分會ニ付テハ郡長ハ適宜ニ其ノ選舉期日ヲ定メ選舉本會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第七條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

●府縣制及郡制中直接税ノ種類

(明治三十二年六月十九日)
内務省告示第六十九號

三十二年内務省告示第七十四號第九十七號三十九年同第六十八號ヲ以

テ本告示中改正

本年法律第六十四號府縣制第四百四十五條本年法律第六十五號郡制第二百二十七條直接税ノ種類左ノ如シ

國 税

地租 所得税(所得税法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ除ク)

營業税 礦業税

府縣税

地租割 戶數割 家屋税 營業税 雜種税 營業税附加税 所得

税附加税 礦業税附加税

●府縣會及郡會議員ノ選舉權等ニ關スル納税届出ノ

件 (明治三十二年七月六日)
内務省令第三十一號

府縣會議員及郡會議員ノ選舉權等ニ關スル納税届出ノ件左ノ通定ム

第一條 府縣會議員及郡會議員ノ選舉人ニシテ所得税法第三條第一項第二種ノ所府縣會及郡會議員ノ選舉權等ニ關スル納税届出ノ件 九五

島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件

九六

得中記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ納ムル場合ニ於テ其ノ納稅ニ付府縣制第十條及郡制第十一條第二項ニ依リ届出ヲ爲ストキハ納稅地市町村長ノ證明ヲ得ルコトヲ要ス

第二條 所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ニ關シ納稅地市町村長ノ請求アルトキハ同法第四十二條ニ依リ其ノ所得稅ヲ徵收スル公共ノ團體若ハ組合又ハ銀行會社ハ之ニ應シ納稅ニ關スル事項ヲ通知スヘシ

第三條 本令中市町村長トアルハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ月長又ハ之ニ準スヘキ者ニ準用ス

●島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件

(明治三十一年六月七日
勅令第二百二十七號)

朕島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 町村制ヲ施行セサル島嶼ハ府縣會議員ノ一選舉區トス

第二條 左ノ要件ヲ具備スル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

- 一 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル滿二十五歳以上ノ男子
 - 二 一月ヲ構ヘ二年以來町村内ニ住所ヲ有シ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ及其ノ町村内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者
 - 三 其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者
- 左ニ掲グル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有セス
- 一 治産ノ禁ヲ受ケタル者
 - 一 公權停止中ノ者
- 一 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫セラレ其ノ猶豫期間中ノ者 (二十九年勅令第五百五十六號ヲ以テ追加)
- 一 租稅滯納處分中ノ者
 - 一 公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者
 - 一 家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者
 - 一 公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテノ者

島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件

九七

島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件

九八

一陸海軍ノ現役ニ服スル者又ハ現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者

第三條 府縣會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

第四條 府縣會議員ハ他ノ町村ニ其ノ住所ヲ移スモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

第五條 島嶼ノ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ一戸長役場管轄區域ヲ以テ一町村ト看做ス

第六條 本令ニ定ムルモノヲ除ク外島嶼ヨリ選出スル府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ總テ府縣制ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件

(明治三十二年六月七日
勅令第二百二十八號)

朕島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ分別スルコトヲ得

第二條 東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於ケル府稅ノ賦課及府會議員ノ選舉ニ關シテハ當分從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件

(明治三十二年六月二十一日
勅令第二百八十五號)

朕市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依
市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件

九九

市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件

一〇〇

市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣制

第五條ノ定員ニ拘ラス之ヲ十二名トス

第三條 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第四條 市部會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選舉ス

市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選舉シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第六條 第三條第五條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非サルハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第七條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外總テ府縣制ノ規定ヲ準用ス

第八條 市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

附則

第九條 本令ニ依リ市部會郡部會ヲ設ケル府縣ニ於テハ從來市部若ハ郡部ニ關スル事件及市郡部連帶ニ關スル事件ハ本令ニ於テモ亦其ノ效力ヲ有ス

第十條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●市部會郡部會及市部參事會郡部參事會ヲ設クヘキ

市部會郡部會及市部參事會郡部參事會ヲ設クヘキ府 一〇一

府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル
事項ニ關スル件

一〇二

府縣

(明治三十二年六月二十一日
內務省令第二十五號)

本年勅令第二百八十五號ニ依リ左ノ府縣ニ於テハ從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經
濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘシ

東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 愛知縣 廣島縣

●府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサ

ル事項ニ關スル件

(明治三十二年六月二十九日
勅令第三百十五號)

朕府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ニ關スル件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

左ニ掲ケル事項ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス但シ郡ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ
ヘシ

一 其ノ府縣郡ニ於テ從來徵收シタルモノト同種類ノ使用料手数料及其ノ細則ニ
關スル件

二 其ノ府縣内ニ於ケル教育勸業衛生土木若ハ慈善ノ事業ニ對スル補助其ノ他其

ノ府縣ニ於テ從來補助シタルモノト同種類ノ補助ニ關スル件

三 豫定價格五千圓未満ノ府縣有不動産處分ニ關スル件

四 其ノ府縣ニ於テ從來賦課シタルモノト同種類ノ夫役現品ノ賦課ニ關スル件

五 支出總額十萬圓以内ノ府縣繼續費ニ關スル件

六 其ノ府縣ニ於テ從來設ケタルモノト同種類ノ特別會計ニ關スル件

七 府縣債ノ元本總額五萬圓郡債ノ元本總額千圓ニ達スルマテノ起債

八 感化院費國庫下渡金又ハ癩豫防費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件(四十二

年勅令第六號ヲ以テ改正)

九 警察費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件

十 傳染病豫防費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件(三十三年勅令第三十一號ヲ

以テ追加)

十一 府縣制第八條ノ場合ニ於テ關係府縣知事ノ協議一致シタルトキ(三十五

年勅令第三十八號ヲ以テ追加)

●府縣郡吏員服務紀律

(明治三十五年二月十四日
內務省令第三號)

府縣郡吏員服務紀律

一〇三

府縣郡吏員服務紀律

府縣郡吏員服務紀律左ノ通定△

府縣郡吏員服務紀律

第一條 府縣郡吏員ハ法令ニ從ヒ忠實ニ其ノ職務ヲ盡スヘシ

府縣郡吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守スヘシ

第二條 府縣郡吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ

傷フノ所爲アルヘカラス

第三條 府縣郡吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文

書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ但裁判所ノ召喚

ニ依リ職務上ノ祕密ニ付訊問ヲ受ケタル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル

事件ニ付テハ此限ニ在ラス

第四條 府縣郡吏員ハ職務ノ爲出張ヲ命セラレタル場合ヲ除ク外指揮監督者ノ許

可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條 府縣郡吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモ

ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接

トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル府縣郡吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者

ノ爲ニスルモノノ要燕ヲ受クルコトヲ得ス

一 府縣郡ノ爲ニ工事又ハ物件調達ノ請負ヲ爲ス者

二 府縣郡ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三 府縣郡ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四 府縣郡ト土地物件ノ賣買贈與貸借若ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五 其ノ他府縣郡ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ントスル者

第七條 有給ノ府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ若

ハ家族ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ受ケヘキ他ノ事務ヲ行フコト

ヲ得ス

第八條 本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ府縣吏員ニ付テハ府縣知事、郡吏員ニ

付テハ郡長ヲ謂フ

府縣郡吏員服務紀律

府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證並賠償責任ニ
關スル件

一〇六

第九條 郡組合ノ吏員ニ關シテハ郡吏員ニ關スル規定ヲ準用ス

●府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證並賠償責任ニ關

スル件 (明治三十三年五月二十八日
勅令第二百四十八號)

府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證並賠償責任ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

第一條 府縣出納吏ハ府縣ニ對シ郡出納吏ハ郡ニ對シ其ノ管掌ニ屬スル現金、證
券及物品ノ亡失毀損ニ付賠償ノ責任ヲ有ス

第二條 府縣出納吏、郡出納吏前條ノ現金、證券又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキ
ハ府縣出納吏ニ對シテハ府縣知事、郡出納吏ニ對シテハ郡長ニ於テ期間ヲ指定
シ其ノ賠償ヲ命スヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ其ノ亡失
毀損シタル物品府縣知事、郡長ノ定ムル所ニ依リ府縣郡官吏吏員以下ノ使用ニ
供シタルモノニシテ合規ノ監督ヲ怠ラサル場合ニ在テハ府縣出納吏ニ付テハ府
縣參事會、郡出納吏ニ付テハ郡參事會ノ議決ヲ經テ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘ

シ(二十九年勅令第百八十九號ヲ以テ本項中追加)

本條郡長ノ處分ニ不服アル郡出納吏ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル郡
出納吏及府縣知事ノ處分ニ不服アル府縣出納吏ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ
得

前項ノ訴願ハ命令書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ
之ヲ提起スヘシ

第三條 賠償金ノ徵收ニ關シテハ府縣ニ在テハ府縣制第百十六條第二項乃至第六
項、郡ニ在テハ郡制第九十四條ノ例ニ依ル

第四條 府縣出納吏、郡出納吏ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認メタルト
キハ府縣知事ニ於テ其ノ種類、程度其ノ他身元保證ニ關シ必要ナル規定ヲ定ム
ルコトヲ得

第五條 府縣出納吏、郡出納吏以外ノ吏員ニシテ其ノ職務上必要ナル物品ノ交付
ヲ受ケタル者其ノ物品ヲ故意又ハ怠慢ニ因リ亡失毀損シタルトキハ府縣知事、
郡長ハ之ニ對スル賠償ヲ命スヘシ(二十九年勅令第百八十九號ヲ以テ追加)

府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證並賠償責任ニ關
スル件 一〇七

府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ノ退隱料退職
給與金遺族扶助料支給ニ關スル規定ノ件

一〇八

●府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ノ退隱料退

職給與金遺族扶助料支給ニ關スル規定ノ件

(明治三十三年四月六日)
(内務省令第十四號)

府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ニ對シ府縣郡ニ於テ退隱料退職給與金遺族
扶助料ノ支給ニ關スル規定ヲ設クルノ必要アルトキハ法律命令中別段ノ規定アル
モノヲ除クノ外府縣ニ在テハ府縣會、郡ニ在テハ郡會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可
ヲ受クヘシ

●府縣稅徵收ニ關スル件

(明治三十三年三月三十日)
(勅令第八十一號)

朕府縣稅徵收ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負

フ
前項府縣稅ノ徵收ニ關シテハ地租ノ附加稅ヲ除クノ外徵收金額百分ノ四ヲ其ノ

市町村ニ交付スヘシ

第二條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅

金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第三條 府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ

内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四條 府縣稅ヲ徵收セムトスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏

員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製

シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發ス

ルコトヲ得(三十五年勅令第七十三號ヲ以テ第三項ヲ削ル)

第五條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ税金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其ノ

領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

府縣稅徵收ニ關スル件

一〇九

府縣稅徵收ニ關スル件

一一〇

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ税金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金納入ノ義務ヲ了ス

第六條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人納期內ニ税金ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ其ノ滯納ノ稅目、金額及滯納人ノ住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ徵稅令書ヲ發シタル官吏員ニ報告スヘシ

徵稅令書ヲ發シタル官吏員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ督促狀ヲ發スヘシ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人納期內ニ税金ヲ完納セサルトキ亦同シ

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間內ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ(三十五年勅令第七十三號ヲ以テ本條改正)

第七條 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收ス
手数料ノ額ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム
市町村長ヲシテ督促狀ヲ發セシメタルトキハ手数料ハ之ヲ其ノ市町村ニ交付ス

ヘシ(同上)

第八條 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル府縣稅ニ限り納期前ト雖之ヲ徵收スルコトヲ得(同上)

- 一 國稅徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 強制執行ヲ受クルトキ
 - 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 四 競賣ノ開始アリタルトキ
 - 五 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
 - 六 納稅人脫稅又ハ遁稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
- 第九條 相續開始ノ場合ニ於テハ府縣稅、督促手数料及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ府縣稅、督促手数料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス(同府縣稅徵收ニ關スル件)

一一一

上)

第十條 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル府縣稅、督促
手数料及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

第十一條 同一年度ノ府縣稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ
徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得(同上)

第十二條 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項
ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ郡長又ハ市長ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人
ヲ變更シタルトキ亦同シ(同上)

第十三條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住
所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人
ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所
ニ送達ス(同上)

第十四條 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタ

ルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日
ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(同上)

第十五條 府縣稅ノ徵收期ハ府縣知事之ヲ定ム

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本令ノ規
定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第十七條 本令ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣稅、地方稅及市町村稅等滯納處分囑託方ノ件

(明治三十四年九月二十八日
內務省令第二十六號)

明治三十年七月內務省令第二十二號左ノ通改正ス

地方長官ハ其ノ道府縣外ニ於テ北海道地方稅府縣稅使用料手数料夫役現品ニ代フ
ル金錢過料其ノ他道府縣ノ收入ノ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ處分ヲ

府縣稅、地方稅及市町村稅等滯納處分囑託方ノ件 一一三

府縣稅家屋稅ニ關スル件

一一四

爲スヘキ地ノ地方長官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
郡長ハ其ノ郡外ニ於テ使用料手数料過料其ノ他郡ノ收入ノ滯納處分ヲ爲スコトヲ
要スルトキハ其ノ處分ヲ爲スヘキ地ノ郡長島司市參事會區長ニ之ヲ囑託スルコト
ヲ得

市參事會區長町村長間切島長ハ其ノ市區町村間切島外ニ於テ市區町村間切島稅使
用料加入金手数料夫役現品ニ代フル金圓其ノ他市區町村間切島ノ收入ノ滯納處分
ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ處分ヲ爲スヘキ地ノ市參事會區長町村長間切島長
ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

本令ノ事務ハ郡長島市參事會區長町村長間切島長ノ設ケナキ地ニ在テハ之ニ準ス
ヘキモノニ於テ之ヲ取扱フヘシ

●府縣稅家屋稅ニ關スル件

(明治三十二年六月十七日)
勅令第二百七十六號

朕府縣稅家屋稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
府縣ハ其ノ府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋稅ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ

得但シ家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス
前項ニ依リ新ニ家屋稅ヲ賦課セントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏
大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件

(明治三十一年六月二十九日)
勅令第三百十六號

朕府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其
ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得

前項ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ム

第二項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅府
縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ

府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件

一一五

府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度 一一六

府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限り不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度

(明治三十二年六月三十日
内務省令第二十九號)

本年勅令第三百十六號第一條ニ依リ府縣ニ於テ市町村ニ分賦スルコトヲ得ヘキ費用ノ限度ハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一トス

●郡費分賦ノ件 (明治三十五年四月五日
法律第四十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡費分賦ノ件ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡制第九十條ニ依リ郡費分賦ノ割合ヲ定ムルニ當リ當該年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額前前年度ニ比シ四分ノ一以上ヲ増減スヘキ事故ヲ生シタル町村アルトキハ其ノ増減額ヲ加除シタル額ヲ以テ割合ヲ定ムヘシ

●府縣制郡制ニ依ル費用流用並財務ニ關スル件

(明治三十三年三月十三日
内務省令第七號)

明治三十二年法律第六十四號府縣制第二百二十五條明治三十二年法律第六十五號郡制第二百三條ニ依リ費用流用並財務ニ關スル件左ノ通定ム
第一條 府縣稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ

郡費分賦ノ件 府縣制郡制ニ依ル費用流用並財務ニ 一一七
關スル件

府縣制郡制ニ依ル費用並財務ニ關スル件 一一八

第二條 各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四條 歳入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ仕拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額現金前渡前金拂概算拂繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ

第四條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六條 繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第七條 毎年度歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス

第八條 府縣ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後五箇月以内ニ完整スヘシ

第九條 歳入歳出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第十條 歳入歳出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十一條 特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十二條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス

第十四條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ機密費ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十六條 會計年度經過後ニ至リ歳入ニ不足ヲ生シ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十七條 府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知事ニ於テ検査員ヲ命ジ少クトモ毎年一回之ヲ検査セシムヘシ

府縣出納吏解職セラレタルトキハ府縣知事ハ検査員ヲシテ現金及帳簿ヲ検査セシムヘシ

第十八條 府縣ニ屬スル現金ヲ出納及保管シ爲府縣金庫ヲ置ク

第十九條 府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス

府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

府縣本金庫ハ府縣支金庫ヲ總轄ス

第二十條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ許可ヲ得其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十二條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ擔保ヲ府縣知事ニ提出スヘシ其ノ擔保ニ關シテハ内務大臣ノ認可ヲ經府縣知事之ヲ定ム

第二十三條 府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ検査員ヲシテ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ

検査セシメ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 本令ニ規定スルモノハ外必要ナル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス但シ本令ノ規定ニシテ適用シ難キモノハ内務大臣ノ認可ヲ得テ當分其ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

第二十六條 郡ノ財務ニ關スル規定ハ本令ニ準シ府縣知事之ヲ定ム

●府縣制及郡制ニ依ル豫算調製ノ式ハ従前ノ例ニ依ル

ノ件 (明治三十二年四月十三日) 内務省令第六號

本年法律第六十四號府縣制第二百二十五條及同第六十五號郡制第二百三條ニ依リ定ムヘキ豫算調製ノ式並費用流用ニ關スル規定ハ當分ノ内總テ従前ノ例ニ依ル

●府縣歲入歲出豫算調製式 (明治二十四年八月一日) 内務省令第十二號

府縣制第七十五條第三項ニ依リ府縣歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費用流用ノ

府縣制及郡制ニ依ル豫算調製ノ式ハ従前ノ例ニ依ル 一三一
ノ件 府縣歲入歲出豫算調製式

府縣歲入歲出豫算調製式

一一三

規定ヲ設ク

第一條 府縣歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 歲入歲出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條 數年繼續費府縣制第七十條第二項ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ
夫役現品ヲ增課府縣制第七十三條スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條 歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款ノ金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス
各項目ノ豫算金額ニシテ不得止流用ヲ要スルノ必要アルトキハ府縣參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第六條 市制施行ノ縣ニ在テ府縣制第七十二條第一項ノ負擔ニ任セシメ及同條第二項ニ依リ一方ノ負擔ノ増加スル場合ハ第一號書式中ハ第四號ノ式ノ如ク之レ

ヲ記載スヘシ

第七條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府縣制第二十七條第一項ニ依リ專ラ東京府京都市大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノトヲ分別スルトキ府縣制第七十一條ノ豫算ハ第一號書式ニ基キ第五號ノ式ノ如ク之レヲ調製シ其市部限リ郡部限リノ豫算ハ第一號書式ニ準シ第六號第七號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第八條 府縣ノ歲入歲出中會計ヲ異ニスルモノ、豫算モ總テ本令ノ式ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

附則

第九條 年度央ニ於テ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ在テ明治二十三年法律第八十五號第三條ニ依リ從前府縣會ノ議決尙其效ヲ存シタル各款ニ於テ從前ノ小科目ニシテ本令書式ノ項ト名稱ノ異ナルモノ又ハ消滅ニ歸シタルモノハ其細目ニ就キ金員ヲ區別シ各相當ノ項ニ編入整理スヘシ

第十條 第九條ニ依リ組替ヲ爲シタルモノハ府縣會ニ報告スヘシ
府縣歲入歲出豫算調製式

一一三

府縣歲入歲出豫算調製式

(第一號)

明治何年度某府縣歲入歲出豫算書

歲入

經常部

第一款地租割金

第一項地租割金

但本年地租課税高金若干
地租課税額二付若干

第二款營業稅金

第一項商業稅金

第二項工業稅金

第三款雜種稅金

第一項料理屋稅金

第二項待合茶屋稅金

第三項遊船宿稅金

一二四

第四項芝居茶屋稅金

第五項飲食店稅金

第六項湯屋稅金

第七項理髮人稅金

第八項傭人請宿稅金

第九項遊藝師匠稅金

第十項遊藝稼人稅金

第十一項相撲稅金

第十二項俳優稅金

第十三項幣間稅金

第十四項藝妓稅金

第十五項市場稅金

第十六項演劇稅金

第十七項興行稅金

但何年何月開辦戶數
若干壹戶二付若干

第五款家屋稅金

(許可を得た
二項三項)

第一項家屋稅金

但云々

第六款財產收入金

第一項不動產收入金

第二項動產收入金

第七款國庫下渡金

第一項警察費下渡金

第二項在府縣獄囚徒費

第八款雜收入金

第一項請願巡査費付金

第二項懲罰及沒收金

第十八項遊覽所稅金

第十九項遊技場稅金

第二十項人寄席稅金

第二十一項船稅金

第二十二項車稅金

第二十三項水車稅金

第二十四項乘馬稅金

第二十五項屠畜稅金

第二十六項漁業稅金

第二十七項採藻稅金

第二十八項某稅金

(特別ニ許可ナ
得タルモノ)

第四款戶數割金

第一項戶數割金

府縣歲入歲出豫算調製式

府縣歲入歲出豫算調製式

一二六

- 第三項 使 用 料 金
- 第四項 藥價及入院料 金
- 第五項 診察及手術料 金
- 第六項 控 業 料 金
- 第七項 物品賣拂代 金
- 第八項 囚徒工錢收入 金
- 第九項 蕙惠川(物品代)收入 金
- 第十項 作 業 益 金
- 第十一項 賦 金
- 第十二項 某 收 入 金
- 經常部合計金
- 臨時部
- 第一款 繰 越 金 金
- 第一款 前年度繰越金 金

- 第二款 國庫補助金 金
- 第一項 某費補助金 金
- 第二項 某費補助金 金
- 第三款 寄 附 金 金
- 第一項 某費寄附金 金
- 第二項 某費寄附金 金
- 第四款 財產賣拂代 金
- 第一項 不動產賣拂代 金
- 第二項 動產賣拂代 金
- 第五款 府 縣 債 債 金
- 第一項 府 縣 債 債 金
- 臨時部合計金
- 歲入總計金

歲 出

經常部

- 第一款 醫 察 費 金
- 第一項 俸給及諸給 金
- 第二項 廳 費 金
- 第三項 機 密 費 金
- 第二款 警察廳舍修繕費 金
- 第一項 修 繕 費 金
- 第三款 土 木 費 金
- 第一項 道路橋梁費 金
- 第二項 治水堤防費 金
- 第三項 港 灣 費 金
- 第四項 測 量 費 金
- 第四款 府縣會議諸費 金
- 府縣歲入歲出豫算調製式

- 第一項 府縣會議費 金
- 第二項 府縣參事會諸費 金
- 第五款 衛生及病院費 金
- 第一項 衛 生 諸 費 金
- 第二項 某病院費 金
- 第三項 檢 査 費 金
- 第六款 教 育 費 金
- 第一項 尋常師範學校費 金
- 第二項 某學校費 金
- 第三項 學事諸費 金
- 第七款 郡廳舍修繕費 金
- 第一項 修 繕 費 金
- 第八款 郡廳舍修繕費及國中 金
- 第一項 俸給及諸給 金

一二七